



校訓：至誠一貫 学校教育目標：自ら学び、自ら行動し、互いを認め合う生徒の育成

令和8年度西有田中学校だより

第13号(2026.10.2)

文責：中尾 恵子

挑戦・仲間

後期からの学習と生活について

10月となり、令和8年度の折り返しの時期となりました。いよいよ後期が始まります。以下は、9月28日の全校集会で話した内容です。

1. 節目という「リセット」の機会ととらえる

「前期の勢いのままもっと頑張るぞ」と燃えている人。

逆に、「前期は思うようにいかなかったな」と少し不安や後悔を抱えている人。

学校の「前後期制」という節目は、全員に与えられた「最高のリセットのチャンス」だと思っています。前期の様子はどうであれ、今日から全員のスコアボードは「0対0」に戻ります。過去を変えることはできませんが、今日からの未来は皆さんの手でいくらかでも新しく創り出すことができます。

2. 小さな「挑戦」と「考動(こうどう)」に取り組む

後期に、是非意識してほしいことが1つあります。それは、「小さくてもいいから、自分で考えて一歩を踏み出すこと」です。大きな目標を掲げることは素晴らしいですが、高すぎる壁を前にして動けなくなってしまっただけでは意味がありません。

- ・「授業中、あと1回多く集中して先生の話の聴いてみる」
- ・「廊下ですれ違う人に、自分から会釈をしてみる」
- ・「友達が困っていたら、『大丈夫?』と声を掛けてみる」

このような誰にでもできるような小さな実践を、自分で考えてやってみる。これを「考動(こうどう：考えて動く)」と言います。

後期は、学習発表会や合唱コンクール、部活動の新体制、生徒会長選挙など、皆さんが主役となる場面がたくさんあります。その中で、失敗を恐れずに小さく挑戦してみてください。学校は失敗しながら「次はどうしようか」と学ぶ場所です。

3. 学校を「誰もが安心できる場所」にする

そして、もう1つの大切な願いはとして、学校には、たくさんの仲間がいます。元気いっぱいにごさる日もあれば、時には心が疲れて、学校に来るのが少しきついなと感じる日があるかもしれません。それは誰にでもあることです。

だからこそ、この中学校を「誰もが安心してそこにいられる場所」にしていきたいと思います。互いの違いを認め合い、苦手なところは補い合うようなあたたかい学級、あたたかい学年を、皆の手で育ててほしいと願っています。先生方も、全力で皆さんを支えます。

3年生にとっては進路の決定と義務教育の集大成に向かう、非常に重要な時期になります。

2年生は学校の「顔」として全体を引っ張っていくリーダーの時期です。

1年生は先輩になるための力を蓄える充実の時期です。

それぞれの学年が、この後期、大きく飛躍することを期待しています。実り多き後期にしていきたいと思います。

10/23 学習発表会について

10月23日(金)は学習発表会を開催します。5月から実行委員会を立ち上げて、『『共創』～みんなの個性を輝かせ 創る結笑～』というテーマのもとで取り組んでいます。また、午後からは、木村 まさ子様をお迎えしての教育講演会(13:30開演)も計画しています。お出てください!!

木村 まさ子様のプロフィール

東京生まれ。東京・世田谷でイタリアンレストランを経営する。「より健康にいい食事を」の考えから、イタリア料理に薬膳を取り入れたレストランをオープンさせる。現在は講演活動に専念し、全国各地で「食のいのちの大切さ」を説いている。

